

2025年度 慶應義塾大学 理工学部 数学

1

【解答】

(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	(オ)	(カ)
$\frac{4\sqrt{3}}{3} + \frac{1}{3}i$	$\frac{4}{3}$	9	3275	$6t^7 + 8t^5 + 2t^3$	$\frac{7}{12}$

【解説】

(1)

$$\begin{aligned}
 |z+i| &= 2|z-\sqrt{3}| \Leftrightarrow (z+i)(\bar{z}-i) = 4(z-\sqrt{3})(\bar{z}-\sqrt{3}) \\
 &\Leftrightarrow z\bar{z} - \frac{4\sqrt{3}-i}{3}z - \frac{4\sqrt{3}+i}{3}\bar{z} + \frac{11}{3} = 0 \\
 &\Leftrightarrow \left(z - \frac{4\sqrt{3}+i}{3}\right)\left(\bar{z} - \frac{4\sqrt{3}-i}{3}\right) = \frac{16}{9} \\
 &\Leftrightarrow \left|z - \frac{4\sqrt{3}+i}{3}\right| = \frac{4}{3}
 \end{aligned}$$

より、求める図形は、

$$\text{中心 } \frac{4\sqrt{3}}{3} + \frac{1}{3}i, \text{ 半径 } \frac{4}{3} \quad \dots \text{ (ア) (イ)}$$

の円である。

(注) 2点 $-i$ と $\sqrt{3}$ に関するアポロニウスの円である。このことから中心と半径を求めることもできる。

(2) 自然数の中で6または8または9で割り切れるものを小さい順に並べた数列を $\{b_m\}$ ($m=1, 2, 3, \dots$) とする。6, 8, 9の最小公倍数は72であり、1から72までの自然数の中で6または8または9で割り切れるものは次の22個である。

6, 8, 9, 12, 16, 18, 24, 27, 30, 32, 36, 40, 42, 45, 48, 54, 56, 60, 63, 64, 66, 72

よって、

$$a_{30} = 9 \quad \dots \text{ (ウ)}$$

である。

次に、上の22個、すなわち $b_1 \sim b_{22}$ を用いれば、数列 $\{b_m\}$ の項は自然数 k を用いて、

$$b_{22(k-1)+l} = 72(k-1) + b_l \quad (l=1, 2, \dots, 22)$$

と表される。したがって $a_n = 1000$ を満たす最大の n は、

$$\begin{aligned}
b_{1001} - 1 &= b_{22 \cdot 45 + 11} - 1 \\
&= 72 \cdot 45 + b_{11} - 1 \\
&= 72 \cdot 45 + 36 - 1 \\
&= 3275
\end{aligned}$$

… (エ)

である.

(3) $g(x) = x^3 + x$ より, $y = g^{-1}(x)$ とおくと,

$$x = g(y) = y^3 + y$$

となり, このとき,

$$\frac{dx}{dy} = 3y^2 + 1 \quad \therefore \quad \frac{d}{dx} g^{-1}(x) = \frac{dy}{dx} = \frac{1}{3y^2 + 1} = \frac{1}{3\{g^{-1}(x)\}^2 + 1} \quad \dots \textcircled{1}$$

ここで, $h(x) = t^2 x^2 - f(g^{-1}(x))$ とおくと, ①を用いて,

$$\begin{aligned}
h'(x) &= 2t^2 x - f'(g^{-1}(x)) \cdot \frac{d}{dx} g^{-1}(x) \\
&= 2t^2 x - f'(g^{-1}(x)) \cdot \frac{1}{3\{g^{-1}(x)\}^2 + 1}
\end{aligned}$$

と表され, $g^{-1}(g(t)) = t$ に注意すると,

$$\begin{aligned}
h'(g(t)) &= 2t^2 g(t) - f'(g^{-1}(g(t))) \cdot \frac{1}{3\{g^{-1}(g(t))\}^2 + 1} \\
&= 2t^2 (t^3 + t) - f'(t) \cdot \frac{1}{3t^2 + 1}
\end{aligned}$$

となる. $h(x)$ が $x = t^3 + t = g(t)$ で極値をとるとき, $h'(g(t)) = 0$ が成り立つから, このとき $f'(t)$ は,

$$2t^2 (t^3 + t) - f'(t) \cdot \frac{1}{3t^2 + 1} = 0$$

より,

$$\begin{aligned}
f'(t) &= 2t^3 (t^2 + 1) (3t^2 + 1) \\
&= 6t^7 + 8t^5 + 2t^3
\end{aligned}$$

…②… (オ)

となる. 次に②が任意の実数 t に対して成り立つとき,

$$f(t) = \int f'(t) dt = \frac{3}{4} t^8 + \frac{4}{3} t^6 + \frac{1}{2} t^4 + C \quad (C \text{ は積分定数})$$

であり, $f(0) = -2$ より,

$$C = -2$$

と定まるから,

$$\begin{aligned}
f(t) &= \frac{3}{4} t^8 + \frac{4}{3} t^6 + \frac{1}{2} t^4 - 2 \\
\therefore f(1) &= \frac{3}{4} + \frac{4}{3} + \frac{1}{2} - 2 = \frac{7}{12}
\end{aligned}$$

… (カ)

2

【解答】

(キ)	(ク)	(ケ)	(コ)	(サ)
$-\frac{1}{9}x + \frac{10}{9}$	$\left(7, \frac{1}{3}\right)$	$\left(\frac{19}{4}, \frac{4}{3}\right)$	$\frac{4t+49}{10}$	$\frac{7\sqrt{6}}{6}$

【(1)の記述解答とその他の問題の解説】

(1) $f(x) = \frac{1}{x-4}$ とおくと, $f'(x) = -\frac{1}{(x-4)^2}$ であるから, 曲線 C 上の点 $\left(s+4, \frac{1}{s}\right)$ (ただし $s+4 > 4$ より $s > 0$) における接線の方程式は,

$$y = -\frac{1}{s^2} \{x - (s+4)\} + \frac{1}{s}$$

すなわち

$$y = -\frac{1}{s^2}x + \frac{2s+4}{s^2} \quad \dots \textcircled{1}$$

と表される. 直線①が $Q(1, -1)$ を通るとき,

$$-1 = -\frac{1}{s^2} + \frac{2s+4}{s^2} \quad \text{すなわち} \quad s^2 + 2s + 3 = 0$$

が成り立つが, これを満たす実数 s は存在しない. したがって, 曲線 C の接線で Q を通るものは存在しない. (証明終)

(2) 直線①が $P(1, 1)$ を通るとき,

$$1 = -\frac{1}{s^2} + \frac{2s+4}{s^2} \quad \text{すなわち} \quad s^2 - 2s - 3 = 0$$

が成り立つので, $s > 0$ より $s = 3$ である. したがって, ①に $s = 3$ を代入して, l の方程式は,

$$y = -\frac{1}{9}x + \frac{10}{9} \quad \dots \text{(キ)}$$

である. また, このときの接点 A の座標は,

$$\left(7, \frac{1}{3}\right) \quad \dots \text{(ク)}$$

である. 次に, C 上の点 B の座標を $\left(b+4, \frac{1}{b}\right)$ (ただし $b > 0$) とおく.

$$\overline{PB} \cdot \overline{PA} + \overline{PA} \cdot \overline{AQ} + \overline{AB} \cdot \overline{AQ} = -\frac{2}{3} \quad \dots \textcircled{2}$$

について,

$$\begin{aligned}\overrightarrow{PB} \cdot \overrightarrow{PA} + \overrightarrow{PA} \cdot \overrightarrow{AQ} + \overrightarrow{AB} \cdot \overrightarrow{AQ} &= \overrightarrow{PB} \cdot \overrightarrow{PA} + \overrightarrow{PB} \cdot \overrightarrow{AQ} \\ &= \overrightarrow{PB} \cdot \overrightarrow{PQ}\end{aligned}$$

であり,

$$\overrightarrow{PB} = \left(b+3, \frac{1}{b}-1\right), \overrightarrow{PQ} = (0, -2)$$

であるから,

$$\overrightarrow{PB} \cdot \overrightarrow{PQ} = \left(b+3, \frac{1}{b}-1\right) \cdot (0, -2) = 2 - \frac{2}{b}$$

である. よって, Bが②を満たすとき,

$$2 - \frac{2}{b} = -\frac{2}{3} \quad \text{より} \quad b = \frac{3}{4}$$

である. したがって, このときの点Bの座標は,

$$\left(\frac{19}{4}, \frac{4}{3}\right) \quad \dots \text{ (ケ)}$$

である.

(3) Sは線分ARを2:1に内分する点であり, Tは線分BSを3:2に内分する点であるから,

$$\begin{aligned}\overrightarrow{OT} &= \frac{1}{5}(2\overrightarrow{OB} + 3\overrightarrow{OS}) \\ &= \frac{2}{5}\overrightarrow{OB} + \frac{3}{5} \cdot \frac{1}{3}(\overrightarrow{OA} + 2\overrightarrow{OR}) \\ &= \frac{1}{5}\overrightarrow{OA} + \frac{2}{5}\overrightarrow{OB} + \frac{2}{5}\overrightarrow{OR} \\ &= \frac{1}{5}\left(7, \frac{1}{3}\right) + \frac{2}{5}\left(\frac{19}{4}, \frac{4}{3}\right) + \frac{2}{5}\left(t+4, \frac{1}{t}\right) \\ &= \left(\frac{4t+49}{10}, \frac{3t+2}{5t}\right)\end{aligned}$$

である. よって,

$$u = \frac{4t+49}{10} \quad \dots \text{ (コ)}$$

$$v = \frac{3t+2}{5t}$$

と表される. したがって, $t > 0$ に注意して,

$$\begin{aligned}uv &= \frac{4t+49}{10} \cdot \frac{3t+2}{5t} = \frac{1}{50}\left(12t+155+\frac{98}{t}\right) \\ &\geq \frac{1}{50}\left(2\sqrt{12t \cdot \frac{98}{t}}+155\right) \\ &= \frac{1}{50}\left(2 \cdot 14\sqrt{6}+155\right) = \frac{155+28\sqrt{6}}{50}\end{aligned}$$

であり，等号が成立するのは

$$12t = \frac{98}{t} \quad \text{かつ} \quad t > 0 \quad \text{より} \quad t = \frac{7\sqrt{6}}{6}$$

のときである．よって， uv の値は，

$$t = \frac{7\sqrt{6}}{6}$$

… (サ)

のとき最小となる．

3

【解答】

(シ)	(ス)	(セ)	(ソ)	(タ)	(チ)	(ツ)	(テ)
$\frac{5}{36}$	$\frac{1}{6}$	$\frac{1}{2}$	$\frac{1}{3}$	2	$\left(\frac{1}{2}, \frac{5}{6}\right)$	$\left(-\frac{1}{2}, \frac{1}{6}\right)$	$\frac{5}{24} \left\{ \left(\frac{5}{6}\right)^{n-1} - \left(\frac{1}{6}\right)^{n-1} \right\}$

【解説】

(以下では、1 または 3 の目が出たときは、P, Q ともに動かさないものとする)

(1) 1 個のサイコロを投げたとき、

事象 A : 1 または 3 の目が出る (P, Q ともに動かさない)

事象 B : 2 または 4 の目が出る (P のみ正の向きに 1 だけ動かす)

事象 C : 5 の目が出る (Q のみ正の向きに 1 だけ動かす)

事象 D : 6 の目が出る (P, Q ともに正の向きに 1 だけ動かす)

と定義する. 2 回さいころを投げて P と Q の距離が 2 となるのは、B が 2 回連続して起きるか、C が 2 回連続して起きるときであり、これらは互いに排反である. したがって、

$$p_2 = \left(\frac{2}{6}\right)^2 + \left(\frac{1}{6}\right)^2 = \frac{5}{36} \quad \dots (\text{シ})$$

である.

(2)

P が Q よりも正の向きに 1 だけ進んでいる状態を状態 X

P と Q が同じ位置にある状態を状態 Y

Q が P よりも正の向きに 1 だけ進んでいる状態を状態 Z

と定義する. よって、1 回サイコロを投げたとき、

状態 X となるのは事象 B が起きるとき

状態 Y となるのは事象 A または D が起きるとき

状態 Z となるのは事象 C が起きるとき

であるから、 $x_1 = \frac{1}{3}, y_1 = \frac{1}{2}, z_1 = \frac{1}{6}$ である.

次に、 $n+1$ 回さいころを投げて状態 Y となるのは、

- ・ n 回さいころを投げて状態 X となり、かつ次に事象 C が起きる
- ・ n 回さいころを投げて状態 Y となり、かつ次に事象 A または D が起きる
- ・ n 回さいころを投げて状態 Z となり、かつ次に事象 B が起きる

のいずれかの場合であり、これらは互いに排反である. したがって

$$\begin{aligned}
y_{n+1} &= x_n \cdot \frac{1}{6} + y_n \cdot \left(\frac{1}{3} + \frac{1}{6} \right) + z_n \cdot \frac{1}{3} \\
&= \frac{1}{6}x_n + \frac{1}{2}y_n + \frac{1}{3}z_n \quad \dots \textcircled{1} \dots (\text{ス}) \sim (\text{ソ})
\end{aligned}$$

という関係式が成り立つ.

また, $n+1$ 回さいころを投げて状態 X となるのは,

- ・ n 回さいころを投げて状態 X となり, かつ次に事象 A または D が起きる
- ・ n 回さいころを投げて状態 Y となり, かつ次に事象 B が起きる

のいずれかの場合であり, これらは互いに排反である. そして, $n+1$ 回さいころを投げて状態 Z となるのは,

- ・ n 回さいころを投げて状態 Y となり, かつ次に事象 C が起きる
- ・ n 回さいころを投げて状態 Z となり, かつ次に事象 A または D が起きる

のいずれかの場合であり, これらは互いに排反である. これらから,

$$x_{n+1} = \frac{1}{2}x_n + \frac{1}{3}y_n \quad \dots \textcircled{2}$$

$$z_{n+1} = \frac{1}{6}y_n + \frac{1}{2}z_n \quad \dots \textcircled{3}$$

が成り立つ. ②. ③より y_n を消去すると,

$$\begin{aligned}
x_{n+1} - 2z_{n+1} &= \frac{1}{2}x_n + \frac{1}{3}y_n - 2\left(\frac{1}{6}y_n + \frac{1}{2}z_n\right) \\
&= \frac{1}{2}(x_n - 2z_n)
\end{aligned}$$

となり, 数列 $\{x_n - 2z_n\}$ は公比 $\frac{1}{2}$ の等比数列であり, $x_1 - 2z_1 = \frac{1}{3} - 2 \cdot \frac{1}{6} = 0$ である. したがっ

て, すべての自然数 n に対し $x_n - 2z_n = 0$, すなわち,

$$x_n = 2z_n \quad \dots (\text{タ})$$

が成り立つ.

(注) 上の $x_n = 2z_n$ の関係を用いると, y_{n+1} は例えば(3)の④式, すなわち

$$y_{n+1} = 0 \cdot x_n + \frac{1}{2}y_n + \frac{2}{3}z_n$$

のような形でも表されるため, (ス) $\sim$ (ソ) の答は一意的には定まらない.

(3) $x_n = 2z_n$ を用いると, ①は

$$y_{n+1} = \frac{1}{6} \cdot 2z_n + \frac{1}{2}y_n + \frac{1}{3}z_n = \frac{1}{2}y_n + \frac{2}{3}z_n \quad \dots \textcircled{4}$$

となる. ③, ④より,

$$\begin{aligned}
 z_{n+1} + \alpha y_{n+1} &= \frac{1}{6}y_n + \frac{1}{2}z_n + \alpha\left(\frac{1}{2}y_n + \frac{2}{3}z_n\right) \\
 &= \left(\frac{2}{3}\alpha + \frac{1}{2}\right)z_n + \left(\frac{1}{2}\alpha + \frac{1}{6}\right)y_n
 \end{aligned}
 \quad \dots \textcircled{5}$$

となり、右辺が $\beta(z_n + \alpha y_n)$ の形で表されるとき、

$$\left(\frac{2}{3}\alpha + \frac{1}{2}\right) : \left(\frac{1}{2}\alpha + \frac{1}{6}\right) = 1 : \alpha \quad \dots \textcircled{6}$$

が成り立つ。⑥より、

$$\alpha\left(\frac{2}{3}\alpha + \frac{1}{2}\right) = \left(\frac{1}{2}\alpha + \frac{1}{6}\right) \quad \text{すなわち} \quad \alpha^2 = \frac{1}{4}$$

であるから、

$$\alpha = \pm \frac{1}{2} \quad \dots \textcircled{7}$$

である。 $\alpha = \frac{1}{2}$ を⑤に代入すると、

$$z_{n+1} + \frac{1}{2}y_{n+1} = \frac{5}{6}z_n + \frac{5}{12}y_n = \frac{5}{6}\left(z_n + \frac{1}{2}y_n\right) \quad \dots \textcircled{8}$$

となる。また、 $\alpha = -\frac{1}{2}$ を⑤に代入すると、

$$z_{n+1} - \frac{1}{2}y_{n+1} = \frac{1}{6}z_n - \frac{1}{12}y_n = \frac{1}{6}\left(z_n - \frac{1}{2}y_n\right) \quad \dots \textcircled{9}$$

となる。

以上より、求める定数の組 (α, β) は、

$$(\alpha, \beta) = \left(\frac{1}{2}, \frac{5}{6}\right), \left(-\frac{1}{2}, \frac{1}{6}\right) \quad \dots \text{ (チ) (ツ) }$$

の2組ある。

(4) $n+1$ 回さいころを投げてPとQの距離が2となるのは、

- ・ n 回さいころを投げて状態Xとなり、かつ次に事象Bが起きる
- ・ n 回さいころを投げて状態Zとなり、かつ次に事象Cが起きる

のいずれかの場合であり、これらは互いに排反である。よって、(2)で示したことも用いて、

$$p_{n+1} = \frac{1}{3}x_n + \frac{1}{6}z_n = \frac{1}{3} \cdot 2z_n + \frac{1}{6}z_n = \frac{5}{6}z_n \quad \dots \textcircled{10}$$

が成り立つ。

一方、⑧より

$$z_n + \frac{1}{2}y_n = \left(\frac{5}{6}\right)^{n-1} \cdot \left(z_1 + \frac{1}{2}y_1\right) = \left(\frac{5}{6}\right)^{n-1} \cdot \left(\frac{1}{6} + \frac{1}{2} \cdot \frac{1}{2}\right) = \frac{1}{2} \cdot \left(\frac{5}{6}\right)^n \quad \dots \textcircled{11}$$

であり、⑨より

$$z_n - \frac{1}{2}y_n = \left(\frac{1}{6}\right)^{n-1} \cdot \left(z_1 - \frac{1}{2}y_1\right) = \left(\frac{1}{6}\right)^{n-1} \cdot \left(\frac{1}{6} - \frac{1}{2} \cdot \frac{1}{2}\right) = -\frac{1}{2} \cdot \left(\frac{1}{6}\right)^n \quad \dots \textcircled{12}$$

である。したがって、⑪、⑫より

$$\begin{aligned} 2z_n &= \frac{1}{2} \cdot \left(\frac{5}{6}\right)^n - \frac{1}{2} \cdot \left(\frac{1}{6}\right)^n \\ \therefore z_n &= \frac{1}{4} \cdot \left(\frac{5}{6}\right)^n - \frac{1}{4} \cdot \left(\frac{1}{6}\right)^n \quad \dots \textcircled{13} \end{aligned}$$

したがって、⑩、⑬より

$$p_{n+1} = \frac{5}{6}z_n = \frac{5}{24} \left\{ \left(\frac{5}{6}\right)^n - \left(\frac{1}{6}\right)^n \right\}$$

となるので、 $n \geq 2$ のとき

$$p_n = \frac{5}{24} \left\{ \left(\frac{5}{6}\right)^{n-1} - \left(\frac{1}{6}\right)^{n-1} \right\}$$

である。 $p_1 = 0$ より、これは $n = 1$ でも正しい。

以上より、すべての自然数 n に対し、

$$p_n = \frac{5}{24} \left\{ \left(\frac{5}{6}\right)^{n-1} - \left(\frac{1}{6}\right)^{n-1} \right\} \quad \dots \text{ (テ) }$$

となる。

4

【解答】

(ト)	(ナ)	(ニ)
2	$\frac{\pi}{10} - \frac{1}{25}$	4

【(2)(5)の記述解答とその他の問題の解説】

(1)

$$\begin{aligned}
 I_n &= \int_1^n \left(\frac{1}{x}\right)^{\frac{3}{2}} dx \\
 &= \int_1^n x^{-\frac{3}{2}} dx \\
 &= \left[-2x^{-\frac{1}{2}} \right]_1^n \\
 &= 2 - \frac{2}{\sqrt{n}}
 \end{aligned}$$

であるから,

$$\lim_{n \rightarrow \infty} I_n = \lim_{n \rightarrow \infty} \left(2 - \frac{2}{\sqrt{n}} \right) = 2 \quad \dots \text{(ト)}$$

である.

(2) $y = \left(\frac{1}{x}\right)^{\frac{3}{2}}$ ($x > 0$) は減少関数であるから, 2 以上の任意の自然数 k に対し, 区間 $[k-1, k]$

で $\left(\frac{1}{k}\right)^{\frac{3}{2}} \leq \left(\frac{1}{x}\right)^{\frac{3}{2}}$ である. よって,

$$\int_{k-1}^k \left(\frac{1}{k}\right)^{\frac{3}{2}} dx \leq \int_{k-1}^k \left(\frac{1}{x}\right)^{\frac{3}{2}} dx$$

すなわち,

$$\left(\frac{1}{k}\right)^{\frac{3}{2}} \leq \int_{k-1}^k \left(\frac{1}{x}\right)^{\frac{3}{2}} dx$$

が成り立つ.

したがって, n が 3 以上の自然数のとき,

$$\begin{aligned}
 S_n &= \sum_{k=1}^n \left(\frac{1}{k}\right)^{\frac{3}{2}} = 1 + \left(\frac{1}{2}\right)^{\frac{3}{2}} + \sum_{k=3}^n \left(\frac{1}{k}\right)^{\frac{3}{2}} \\
 &\leq 1 + \frac{\sqrt{2}}{4} + \sum_{k=3}^n \int_{k-1}^k \left(\frac{1}{x}\right)^{\frac{3}{2}} dx
 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
&= 1 + \frac{\sqrt{2}}{4} + \int_2^n \left(\frac{1}{x}\right)^{\frac{3}{2}} dx \\
&= 1 + \frac{\sqrt{2}}{4} + \left[-2x^{-\frac{1}{2}}\right]_2^n \\
&= 1 + \frac{\sqrt{2}}{4} - \frac{2}{\sqrt{n}} + \sqrt{2} \\
&< 1 + \frac{5\sqrt{2}}{4}
\end{aligned}$$

より, 不等式

$$S_n < 1 + \frac{5\sqrt{2}}{4} \quad \dots \textcircled{1}$$

が成り立つ. また, ①は $n=1, 2$ でも成り立つので, すべての自然数 n に対して,

$$S_n < 1 + \frac{5\sqrt{2}}{4}$$

が成り立つ.

(証明終)

(3)

$$\begin{aligned}
\int_0^{\frac{\pi}{2}} x \cos 5x \, dx &= \left[\frac{1}{5} x \sin 5x + \frac{1}{25} \cos 5x \right]_0^{\frac{\pi}{2}} \\
&= \frac{\pi}{10} - \frac{1}{25} \quad \dots \textcircled{+}
\end{aligned}$$

である.

(4) $t = kx$ と置換すると,

$$\begin{aligned}
\int_0^{2\pi} |\sin kx| \, dx &= \int_0^{2k\pi} |\sin t| \cdot \frac{1}{k} \, dt \\
&= \frac{1}{k} \cdot 2k \cdot \int_0^{\pi} |\sin t| \, dt \quad (\because |\sin t| \text{ は周期 } \pi \text{ をもつ}) \\
&= 2 \int_0^{\pi} \sin t \, dt \\
&= 2[-\cos t]_0^{\pi} \\
&= 4 \quad \dots \textcircled{2} \dots \textcircled{-}
\end{aligned}$$

である.

(5)

$$\begin{aligned}
a_k &= \int_0^{2\pi} f(x) \cos kx \, dx = \left[f(x) \cdot \frac{1}{k} \sin kx \right]_0^{2\pi} - \int_0^{2\pi} f'(x) \cdot \frac{1}{k} \sin kx \, dx \\
&= -\frac{1}{k} \int_0^{2\pi} f'(x) \sin kx \, dx
\end{aligned}$$

であるから, 区間 $[0, 2\pi]$ で $f'(x) \sin kx$ が連続であることに注意し, ②および $|f'(x)| \leq M$ を用

いると,

$$\begin{aligned}
|a_k| &= \left| -\frac{1}{k} \int_0^{2\pi} f'(x) \sin kx \, dx \right| = \frac{1}{k} \left| \int_0^{2\pi} f'(x) \sin kx \, dx \right| \\
&\leq \frac{1}{k} \int_0^{2\pi} |f'(x) \sin kx| \, dx = \frac{1}{k} \int_0^{2\pi} |f'(x)| |\sin kx| \, dx \\
&\leq \frac{1}{k} \int_0^{2\pi} M |\sin kx| \, dx \\
&= \frac{4M}{k}
\end{aligned}$$

が成り立つ.

したがって, ①を用いて,

$$\begin{aligned}
T_n &= \sum_{k=1}^n |a_k|^{\frac{3}{2}} \\
&\leq \sum_{k=1}^n \left(\frac{4M}{k} \right)^{\frac{3}{2}} = 8M^{\frac{3}{2}} \cdot \sum_{k=1}^n \left(\frac{1}{k} \right)^{\frac{3}{2}} \\
&< 8M^{\frac{3}{2}} \cdot \left(1 + \frac{5\sqrt{2}}{4} \right) \\
&= (10\sqrt{2} + 8) M^{\frac{3}{2}} \\
&< \left(10 \cdot \frac{3}{2} + 8 \right) M^{\frac{3}{2}} = 23M^{\frac{3}{2}}
\end{aligned}$$

が成り立つ.

(証明終)

5

【解答】

(ヌ)	(ネ)	(ノ)	(ハ)	(ヒ)	(フ)
$\frac{1}{\sqrt{2}}$	$\frac{\sqrt{7}}{4}$	3	4	$\frac{1+\sqrt{2a^2-1}}{2}$	$2a+3m-1$

【解説】

(1) x, y は

$$x > 0, y > 0 \quad \dots \textcircled{1}$$

$$x^2 + y^2 = 1 \quad \dots \textcircled{2}$$

を満たす. このもとでは $AB = y, BC = x$ であるから, $AB = BC$ のとき,

$$x = y = \frac{1}{\sqrt{2}}$$

すなわち, このときの x の値は,

$$x = \frac{1}{\sqrt{2}} \quad \dots (\text{ヌ})$$

である.

次に, ①, ②のもとでは,

$$\frac{k}{n} < \frac{1}{\sqrt{2}}, \text{ すなわち, } k < \frac{1}{\sqrt{2}}n \text{ のとき } x < y$$

$$\frac{k}{n} > \frac{1}{\sqrt{2}}, \text{ すなわち, } k > \frac{1}{\sqrt{2}}n \text{ のとき } x > y$$

$$\left(\frac{k}{n} = \frac{1}{\sqrt{2}} \text{ となることはない} \right)$$

であるから,

$$L_n(k) = \begin{cases} \frac{k}{n} & \left(1 \leq k < \frac{1}{\sqrt{2}}n \right) \\ \sqrt{1 - \left(\frac{k}{n} \right)^2} & \left(\frac{1}{\sqrt{2}}n < k \leq n-1 \right) \end{cases} \quad \dots \textcircled{3}$$

と表される.

$$n=4 \text{ のとき, } \frac{1}{\sqrt{2}}n = 2\sqrt{2} \text{ であり, } 2 < 2\sqrt{2} < 3 \text{ であるから,}$$

$$L_4(1) = \frac{1}{4}, L_4(2) = \frac{2}{4} = \frac{1}{2}, L_4(3) = \sqrt{1 - \left(\frac{3}{4} \right)^2} = \frac{\sqrt{7}}{4}$$

より, $L_4(k)$ ($k=1, 2, 3$) の最大値は

$$\frac{\sqrt{7}}{4}$$

… (ネ)

である. 一方, $n=5$ のとき, $\frac{1}{\sqrt{2}}n = \sqrt{\frac{25}{2}}$ であり, $3 < \sqrt{\frac{25}{2}} < 4$ であるから,

$$L_5(1) = \frac{1}{5}, L_5(2) = \frac{2}{5}, L_5(3) = \frac{3}{5}, L_5(4) = \sqrt{1 - \left(\frac{4}{5}\right)^2} = \frac{3}{5}$$

より, $L_5(k)$ ($k=1, 2, 3, 4$) が最大となる k の値は

3 と 4

… (ノ) (ハ)

の 2 個ある.

さて, ③より, $L_n(k)$ は $1 \leq k < \frac{1}{\sqrt{2}}n$ で単調に増加し, $\frac{1}{\sqrt{2}}n < k \leq n-1$ で単調に減少するから,

$L_a(k)$ が最大となる k の値が 2 個あり, その大きい方の値が m であるとき,

$$1 \leq k < \frac{1}{\sqrt{2}}n \text{ における最大値が } L_a(m-1) = \frac{m-1}{a}$$

$$\frac{1}{\sqrt{2}}n < k \leq n-1 \text{ における最大値が } L_a(m) = \sqrt{1 - \left(\frac{m}{a}\right)^2}$$

と表され, これらが一致する. したがって, $m \geq 1$ のもとで,

$$\frac{m-1}{a} = \sqrt{1 - \left(\frac{m}{a}\right)^2} \Leftrightarrow (m-1)^2 = a^2 - m^2$$

より, m は 2 次方程式

$$2m^2 - 2m + 1 - a^2 = 0$$

の解のうち 1 以上であるものであり,

$$m = \frac{1 + \sqrt{2a^2 - 1}}{2}$$

…④… (ヒ)

である.

次に, $b = 3a + 4m - 2$ とおいたとき, ④より

$$b = 3a + 4 \cdot \frac{1 + \sqrt{2a^2 - 1}}{2} - 2 = 3a + 2\sqrt{2a^2 - 1} \quad \dots \textcircled{5}$$

と表され. $L_b(k)$ が最大となる k の値が 2 個あり, それらの大きい方の値を m' とすると, m' は④の a を b で置き換えたものである

$$\frac{1 + \sqrt{2b^2 - 1}}{2}$$

となる. ここで, ⑤を用いると,

$$\begin{aligned} \sqrt{2b^2 - 1} &= \sqrt{2\left(3a + 2\sqrt{2a^2 - 1}\right)^2 - 1} \\ &= \sqrt{2\left(17a^2 - 4 + 12a\sqrt{2a^2 - 1}\right) - 1} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
 &= \sqrt{34a^2 - 9 + 24a\sqrt{2a^2 - 1}} \\
 &= 4a + 3\sqrt{2a^2 - 1}
 \end{aligned}$$

となるから、 m' は、

$$\begin{aligned}
 \frac{1 + 4a + 3\sqrt{2a^2 - 1}}{2} &= \frac{4a + 3(1 + \sqrt{2a^2 - 1}) - 2}{2} \\
 &= 2a + 3m - 1 \qquad \dots (フ)
 \end{aligned}$$

と表される。

(注) 図形的考察を活用するとよい。